

2024年度

事業報告

社会福祉法人にじのこ福祉会

概 要

にじのこ福祉会の概要

1. 法人の概要

経営主体 社会福祉法人 にじのこ福祉会
 所在地 岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号
 T E L 086-272-4111
 F A X 086-272-4171
 代表者 理事長 木村高清
 法人設立年月日 2010年7月1日

2. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会開催状況

開 催 年月日	出 席 者 人 数	議 題	欠 席 者 氏 名	出 席 監 事 氏 名
2024 5/21	理事6名 監事2名	第1回理事会 第1号議案 2023年度事業報告及び決算の承認について 第2号議案 評議委員会の開催について 第3号議案 役員賠償責任保険の更新について ○報告事項	坪中弘子	木村裕子 藤原弘典
2024 12/19	理事7名 監事2名	第2回理事会（書面議決） 第1号議案 第1号議案 規定類の改定について	書面議決	木村裕子 藤原弘典
2025 2/13	理事6名 監事2名	第3回理事会 第1号議案 規定類の改定について ○報告事項 ○協議事項		木村裕子 藤原弘典
2025 3/3	理事7名 監事2名	第4回理事会 第1号議案 労働組合への回答書について 第2号議案 2024年度補正予算について 第3号議案 2025年度事業計画書について 第4号議案 2025年度当初予算について 第5号議案 2025年度役員等報酬総額について 第6号議案 評議員会の招集について 第7号議案 企業財産保険の契約更新について ○協議事項		木村裕子 藤原弘典
2025 3/13	理事7名 監事2名	第5回理事会 第1号議案 規定類の改定および協定書について 第2号議案 当座貸越の契約更新について 第3号議案 経理規程に関する規定類について 第4号議案 評議員候補者の選任 第5号議案 評議員選任・解任委員会の開催について 第6号議案 苦情対応第三者委員の変更 および運営規程の改定、重要事項説明書について ○協議事項		木村裕子 藤原弘典

(2) 評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席監事 氏 名
2024 6/11	8名	定時評議員会 第1号議案 2023年度決算承認 (計算書類・財産目録の承認)の件 報告第1号 2023年度事業報告の件		山崎由佳利 藤原弘典
2025 3/11	7名	第2回評議員会 第1号議案 2024年度補正予算について 第2号議案 2025年度事業計画書について 第3号議案 2025年度当初予算について 第4号議案 2025年度役員等報酬総額について	武田英夫	木村裕子 藤原弘典

3. 監事監査の実施状況

(1) 監査日程等

2024年5月17日(金) 13時30分～17時00分

木村裕子監事(業務監査)・藤原弘典監事(会計監査)

(2) 監事監査の評価

(保育)

- ・保育内容については、諸帳簿等の書類から保育が、適正に行われていることを確認した。諸帳簿は、保育所保育指針に則り、園独自で創意工夫し作成している。保育では意識的に自然を取り入れ、子どもの発達に応じた保育が行われている。
- ・特に危機管理では、マニュアル等詳しく細やかに整理され、アレルギー児対応では、いつでも誰でも対応できるマニュアルの配置や実習を行い万全を期していることは評価する。
- ・働き方改革で事務の軽減についての検討、役割分担など細やかに計画されている。この計画が職員に無理や負担とならないよう、全体のバランスを十分に見守り、保育内容の充実に繋げていただきたい。

(法人運営、財務その他)

- ・会計管理は適正に行われていることを確認した。帳票類その他もきちんと整理されており問題は無い。
- ・サービス活動収益が194,202,113円で前年度比マイナス3,026,725円となっている。人件費は145,024,337円で前年度比プラス5,233,291円となっている。当期活動増減差額は10,786,749円で前年度比マイナス6,955,354円となった。

(数字はいずれも保育園拠点区分)

- ・前年度比マイナスにはなったものの当期活動増減差額1000万円以上の実績となった。これも厳しい状況の中、園長を中心として全職員の奮闘で乗り切ったことと評価したい。収益の減少に見られるように、少子化の影響もあって今後の保育園運営も困難が予想される。理事会・全職員の創意工夫でなんとか乗り切ってもらいたい。
- ・園の中を見学させてもらったがとても良い雰囲気で行われていた。改修した北側園庭も積極的に活用されているとのことだった。また地域の人々が草取りなどもしてくださること、交流も積極的に行われており評価できる。

4. 職員採用状況

(1) 職員の状況

-2024年度退職状況と2025年度採用状況-

【正規職員】

2024年度退職者（2名）

○正規保育士（1名） 國峰麻理香（大卒：勤続4年）

＝結婚による退職。土日休みが取れる事務に転職。

○正規栄養士（1名） 川上瑛菜（短大卒：中途採用：勤続7か月）

＝適応障害との診断で退職。

2025年度採用者（3名）

○正規保育士（1名） 久保双葉（山陽学園短期大学）

○正規栄養士（1名） 廣瀬詩織（山陽学園短期大学）

○正規調理師（1名） 坂本恵子（中途採用：2024年度非正規雇用）

職員採用については、全国的な保育士不足が深刻になっている。その中で、職員を確保できるように奮闘した1年だった。今年度は、「山陽学園短期大学 保育士合同面談会」や「岡山市私立保育園認定こども園園長会 就職フェスティバル」に参加し、新規採用者の獲得に成功した年でもあった。採用試験の方法も、「小論文」と「面接」以外は、「1日で行う実習試験」と「3日間の体験試験」を選択できるようにした。その結果、採用した2名は、3日間の体験試験を選択した。新卒者が、当園を希望した理由を聞いたところ、「ひとりひとりの特性に合った保育がしたいが、ここでは担当制をしているので良いと思った」「食育に力を入れていて、自分がめざす食育を実践できると思った」という理由を話された。

【非正規職員】＊下記時間には休憩時間を含む

2024年度退職者（3名）

○派遣保育士（週5日:9時間）1名、派遣保育士（週5日:7時間）1名、

保育支援者（年単位変形労働時間）1名

2025年度採用者（7名）

○保育士（年単変形労働時間）1名、保育士（週5日:8.5時間）1名、

人材紹介保育士（週5日:7.75時間）1名、派遣保育士（週5日:8.75時間）1名、

派遣保育士（週4日:4時間:長期休み有）1名、看護師（週5日:5.75時間）1名、

保育支援者（週5日:4時間）1名

また、2025年度も引き続き3名の職員が育児休業を利用しており、途中から1名増えることも確定している。

保育士が、例年以上に確保できたことの背景には、園の雰囲気や保育内容に対する評価や、給与や休暇などの処遇が良いことが挙げられる。この中には、3月の給与改定後に出したハローワークの求人を見て応募してくれ、直接採用に至ったケースもある。

事業報告

I. 法人事業報告

2023年6月より新体制になって2年目として、中期計画の具体化と実践や人材確保を重点課題として試行錯誤してきた。

2023年度末に契約した「イツザイ」は、求人の特化したWEBコンテンツを作成して、有料求人サイトへ情報掲載をすることで請け負っている事業所である。人材確保の安定化を目指して、こういった事業者の活用による求人情報の発信を試みた。しかし、世の中に賃金アップの波が押し寄せる中、賃金面における待遇改善の必要性を感じる結果となった。有料掲載での課金が終わった段階で、それ以上の課金を行わないという判断をした。

その後、公定価格の改定が行われ、職員の賃金面での大幅改定が実施出来たので、ハローワークへの求人募集や法人ホームページによる求人情報の発信は継続しており、そこでの応募もあった。

（中期計画の進捗状況）

2024年度は、中期計画（5ヶ年）の3年目になり様々な取り組みを行った。

○児童発達支援

- ① 職員1名が「児童発達支援管理責任者基礎研修」を修了した
- ② 児童発達心理士が年5回の保育観察を行い、最後にまとめの会を行った
- ③ 田中真介（京都大学元准教授）の研修会（座学・保育観察と分析）を年2回行った

○園庭整備

- ① 計画の参考になる園庭やビオトープ等を見学した
- ② 草花を植えて育てる取り組みや野菜や稲を育てた
- ③ 職員による園庭計画の研修や話し合い、イメージ画の作成をして具体化した

○ICT化

- ① コドモンの活用
- ② 共有デスクトップパソコンの買い替え

○管理職育成

- ① 副主任4名（産休育休1名含む）が、それぞれの専門分野の活動にあたった

○職種の創設

- ① 看護師配置では、2024年度に看護師賃金を創設した

○休暇の創設

- ① リフレッシュ休暇（3日）を創設した

1. 岡山医療生活協同組合との連携

（1）一時保育事業での協力

岡山医療生協は、地域の事業所として当園の一時保育事業を職員に紹介している。

2024年度は、産休育休の代替え職員が見つからず、10月以降は事業を行うことができな

かったが、医療生協職員の中で希望者はおらず利用には至らなかった。

2025年は、人の確保ができたので各年齢のクラスで受け入れが可能となっている。

(2) 地域の子育てを応援する活動

全国に先駆けて岡山医療生協が力を入れてきた「子育て支援」については、協力したいと考えていたが一緒に取り組める機会がなかった。

今年度は、医療生協が行ったおまつりのチラシを、職員や保護者に配布し紹介した。当日は、医療生協関係者ではない保護者が、多数子ども連れで参加してくれた。

(3) 事業展開の中での協力

理事長と共に、医療生協専務との面談を行った。そこでは、「一時保育等の安定的運営のための人の確保の協力」や当法人が考える新たな事業での「医療生協職員（専門家集団）との連携」などを話し合った。今後も、お互いにとって有益な事業展開になるよう協力していきたい。

2. 職員が働き続けられる職場環境づくり

(1) 職員給与の改善について

2024年度の人事院勧告により、2024年4月に遡って+10.7%分（約1,110万円）の公定価格が増額改定された。この増額分を原資に、以下の通り職員の賃金改善を実施した。

① 間差を是正した

＊2023年度10月及び2024年度10月の最低賃金改定時に修正できなかった職種間の間差修正

② 正規職員の基本給を改定した

- ＊基本給を構成している基礎給の見直し
- ＊基本給を構成している研修経験給の見直し
- ＊基本給を構成している職種給の見直し
- ＊役職給の見直し
- ＊一時金0.1か月の増額

③ 非正規職員の時給を改定した

- ＊各職種の初任給を時給に換算し時間給にした
- ＊学歴給を採用した
- ＊一時金を改定した

(2) 働き続けられる職場環境づくり

保護者の労働を支え、子どもにより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応とともに、個々の子どもや保護者への細やかな配慮が求められる。このような状況のもと、近年は保育士の負担感やストレスが増大する傾向にある。

働き続けられる職場環境づくりでは、「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められ、職員ひとりひとりの実情を把握した職場環境づくりが必要になるため、法人としても様々な取り組みを実施している。

2024年度は、勤続表彰での金一封や特別休暇3日間を創設した。また、年単位変形労働時間制の職員には、正規非正規を問わず、年間3日の連休を「リフレッシュ休暇」として取得できるようにした。有給休暇の有効期間内での完全消化を行っている中で、追加の特別休暇やリフレッシュ休暇の取得は、人員体制が厳しい中で大変な部分もあったが、職員には好評で、友だちや家族と旅行に行ったり、実家に帰省したりして余暇を楽しんでいた。

年齢別の配置基準改善が求められる中、保育士の需要はさらに高まると思うが、人的増員による余裕や保育士給与のさらなる改善がないと人の確保や働き続けるモチベーションにはならないので、これらの運動を強める必要があると考える。

また、一方では少子化が進む中で、保育士採用を諦めて定員を減らす保育園も続出している。特に、岡山市中心部の認可保育園では、2025年から75人や50人の定員減を行う保育園もある。今こそ配置基準の見直しを実現し、保育士ひとりひとりの労働密度を改善する取り組みをしていく必要があると感じる。

① 希望休暇の取り組み

子育てや介護など、私的な予定を勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成している。希望休暇は、1か月に約70日程度はあるが、「代替え職員」を配置することで、ほぼすべての希望休暇を叶えるとともに子どもへの影響を最小限にとどめる努力をしている。

② 有給休暇消化の取り組み

有給休暇の消化期間中（発生から2年間）に取得する取り組みを行い、職種や処遇に関係なく、在職するすべての職員が休暇を流すことなく取得できた。また、年度末に退職する職員もすべての有給休暇を取得して退職した。

③ 事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制で取得することは難しい。そのため、事務保障の時間にも休暇代替えに入ってもらい、クラスリーダーは月6時間程度、クラス担任は3時間程度の事務時間を保障できた。子どもから離れて、必要な計画を作成したり、記録したり、教材の準備をする時間を補償できたことで、超過勤務を減らすことができた。

給食は、その日のうちに行う事務業務（調理温度や衛生面に関する記録など）が多いため、洗い物などの手伝いに入ることによって、事務の時間を保障した。

④ 超過勤務

事務時間の保障に加えて、2024年度からクラスの話し合いを勤務時間内で行えるように、代替え職員を配置するなど、さらなる工夫をしながら超過勤務を減らしている。

職員の中には、保育士の友だちも多いが、事務時間が保障されている保育園は少なく、恵まれていることを実感している者も多い。

また、非正規職員すべての超過勤務は、年間約30時間でほぼ超過勤務はなかったと言える。

2024年度の全職員の超過勤務合計時間は、約1608時間で、1人当たり46時間であ

った。

（職種別）

＊正規保育士（副主任含む）

- ・全体 年1210時間（2023年度＝1616時間・2022年度＝1515時間）
- ・1人当たり 年 103時間（2023年度＝124時間）
月 8.6時間（2023年度＝10.3時間）

＊正規栄養士

- ・1人当たり 年52.5時間（2023年度＝74時間）
月 4.4時間（2023年度＝6.1時間）

＊正規事務員

- ・1人当たり 年244時間（2023年度＝316時間・2022年度＝190時間）
月20.3時間（2023年度＝26.3時間）

近年、制度改革が進む中で、様々な補助金制度が新設され、行政に提出する書類や事務量も急激に増えている。そのような中、事務の省力化と職員の増員が課題であったが、6月から週20時間勤務の派遣事務員が見つかったので、仕事の一部を担ってもらっているが、欠勤が多く安定的に事務を任せられないという課題も見えてきた。事務職員は、有給休暇を取得しても代替の職員がいなかったため、休んだ分だけ仕事が残って超過勤務が増えるという悪循環もある。2025年度は、事務の省力化を目指して、インターネットバンキングの活用やDX推進などにより、時間を有効に使えるようにしていきたい。

⑤ キャリアパスの体制作り

処遇改善Ⅱ（キャリアパス）の対象者には、研修の受講が義務付けられている。これらの研修は個人が取得した資格として取り扱われるため、従来から受講者は有給休暇を使い自費で研修に参加することにしている。また、対象者には、経験年数や園内の責任と業務量に応じた支給金額を設定し、その役割を果たしてもらっている。どの職員も自分に与えられた役割や任務を一生懸命果たそうとする姿が見られた。2025年からは、さらに研修修了資格の取得数に応じた手当を創設するよう改善することになっている。

Ⅱ. 保育園の事業報告

1. 地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約 15 分程度のところに位置しており、高齢者とともに、近年では乳幼児も増えている地域になっている。また、周囲には多くの認可保育園や認定こども園、無認可保育施設などがあり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

2. 施設の概要

・敷地面積 4180.52 平方メートル

(うち駐車場の一部は借地…394.64 平方メートル)

・延床面積 1144.47 平方メートル

(園舎 792.49 平方メートル・増築園舎 251.29 平方メートル・屋外倉庫 20.72 平方メートル)

3. 定員

・利用定員 120 名(各年齢 20 名)

・認可定員 165 名

4. 受入年齢

・生後 57 日目から就学前まで

5. 保育時間

(1) 保育標準時間

・午前 7 時から午後 6 時まで

(2) 保育短時間

・午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

(3) 一時預かり事業の保育時間

・午前 7 時 30 分から午後 6 時まで

6. 延長保育事業

・午後 6 時から午後 7 時まで

7. 職種別職員数

※3 月末日の人数

※〔 〕は非正規の人数・派遣を含む

職種 形態	施設長	主任 保育士	副主任 保育士	副主任 事務	保育士	栄養士	調理師	事務	保育 支援者	産休 育休	合計
常勤職員	1 人	2 人	3 人	1 人	10(1) 人	1 人	1(1) 人	1 人	1(1) 人	2 人	22(3) 人
短時間 職員					8 (8)			1 (1)	2 (2)	2 (2)	13 (11)
合計	1	2	3	1	18 (9)	1	1 (1)	1 (1)	3 (3)	4 (2)	35 (14)

8. 年間利用児童数

(1) 定員超過率 103.4 % (昨年度比 -11.9%)

(2) 月平均在籍数 124.08 人 (昨年度比 -14.25 人)

(3) 入園状況

種別 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳	7 ^人	7 ^人	7 ^人	8 ^人	8 ^人	11 ^人	12 ^人	12 ^人	13 ^人	13 ^人	14 ^人	16 ^人	128 ^人
1 歳	23	23	23	24	24	24	25	25	25	25	26	26	293
2 歳	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21	257
3 歳	25	25	25	25	25	24	24	24	24	24	24	24	293
4 歳	22	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	258
5 歳	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	260
合計	120	120	120	122	123	124	125	125	126	126	128	130	1489
入園児数	15	0	0	3	2	3	2	0	1	0	2	2	30
退園児数	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	5

9. 一時預かり事業

(1) 一時保育の動向

2024年度は、産休育休の職員の補充が難しかったため、10月以降は事業を休止した。
 コロナ禍以降、毎日利用する子どものみ受け入れていたが、単発での利用も受け入れるようにした。しかし、思ったほどの利用はなく、該当年齢のクラスで受け入れを行った。
 利用理由のほとんどが私的利用（集団経験）で、4～9月に139人の利用があった。

10. 保育内容

(1) 感染症対策

昨年度の教訓を生かし、今年も保護者、子ども、職員の手洗いうがいの徹底を行った。
 また、園内では、引き続き「ハイタッチゾーンの定期的な消毒」や「換気」への取り組み、園児は、毎朝検温を実施し、クラスごとの名簿に記載してもらうようにした。
 「溶連菌感染症」「アデノウイルス感染症」「インフルエンザ」などが発生することはあったが、園内での感染拡大には至らなかった。

(2) 障害児保育

私たちは「必要な子どもに必要なだけの援助を提供する」という考えを持ち、子どもひとりひとりに合った個別の支援を大切にしている。

職員会議や研修を通して、子どもの見方や対応について話し合ったり学ぶ中で、保育観察や事例検討なども行い、援助の仕方を具体化し実践している。

3 月末時点で 130 名が在籍しているが、自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害等の診断書が出ている子どもは 8 名（約 6.2%）、診断は出ていないが療育に通っている子どもを含めると 13 名（10%）であった。

学年別に見てみると、5 歳児 22 名中 2 名（約 9%）、4 歳児 21 名中 2 名（約 9.5%）、3 歳児 24 名中 4 名（約 16.7%）に診断書が出ていた。

このほか、心臓に疾患がある子どもが多く、緊急時には AED が必要な子どももいる。また、「知的発達がゆっくりな子ども」や「遺伝子に異常がある子ども」などもある。生まれつき歩行に困難さを抱えている子どもには、体幹の育ちが不十分な子どももいる。眼鏡をかけている子どもは 4 人おり、弱視や遠視の子どもも増えているように思う。

5 歳児については、保育の中で個別の支援が必要な子どもが多く、全体の 28%が何らかの支援を必要としていた。そのため、様々な行事や日々の取り組みは、少人数でのグループにして、時間的ゆとりを持って取り組むようにした。子どもたちは、集団活動に期待と意欲を持っており、仲間と共にやり遂げたいという思いから、自分の気持ちを調整する姿が見られるようになってきた。

（3）クラス編成の見直し

3 歳児以上のクラスでは、異年齢混合保育を行っている。

2023 年度は、少人数のクラス編成の方が落ち着くと思い、試験的に 4 クラス編成での保育を行った。しかし、療育や習い事に行く子どもが多く、複数世帯で欠席するときょうだいも同じクラスにいたので、人数が極端に少ない日があった。子どもは、前日の遊びの続きをしようとしてもできなかったり、友だちを豊かに選べないという状況になり、2024 年度は 3 クラス編成に戻すことにした。朝夕は、ホールを活用し、クラスの枠を超えた交流保育ができるようにした。そのことで、同じ遊びに興味を持った子どもが集まり、一緒に意見を出し合ったり、工夫して遊ぶ姿も見られた。

1, 2 歳児クラスでは、遊びと生活の空間を別にして、少人数 2 クラス体制から 1 クラス体制での保育を試みた。大人が 4 人体制になったことで、お互いの保育を見たり指導する機会にもなったが、子どもの人数が多いため難しいとの声も聴かれた。2025 年度は、子ども 18 人に大人が 3 人の体制で保育できるようにしている。

（4）食育活動

2 歳児以上が季節の食材にかかわる取り組み（筍の皮むき、グリーンピースやそら豆のさやむき、トウモロコシの皮むき、芋ほりなど）を行った。

5 歳児は、ひまわり畑やプランターで季節の野菜を栽培し、バケツ稲にも取り組んだ。北側園庭では、地域の渡辺さんや小谷さんが畑を管理して下さり、さつま芋掘りや玉ねぎの収穫をさせてくれた。

お泊り保育では、日々のご飯炊き当番からの「夏野菜カレー」「冬野菜を使った様々な献立」「魚釣り」の活動ができるようにした。作って食べる活動を終始喜んでいる姿があ

った。

また、「そうめん流し」も再開し、子ども達は大喜びでそうめんを食べ、その後は、あそびの中で「そうめん流しごっこ」がしばらく続いた。

その他、芋ほり遠足で子ども達が掘った芋を、職員がライブキッチンで「おいものてんぷら」にした。絵本「からすのてんぷらやさん」を模して、からすのお面を付けた職員のところ、子ども達は、5歳児が作った100円玉を持ってそれぞれに買いに来ていた。ホールは、おいしい香りに包まれ、忙しくなった店の手伝いを5歳児が行ってくれ楽しい会になった。

(5) 総会・試食会・クラス懇談会・参観と個人懇談

①保護者総会

95世帯中24世帯(約25%)が参加した。各クラスから、子ども様子や大切にしたいことなどの話をした。そのほか、クラス編成の見直し、行事の開催時期の変更(暑さの対策のため)、園庭整備の経過報告と協力依頼などの話をした。

また、試食会には12世帯が参加し、子どもたちの人気メニューや園で昔から引き継がれているメニューを試食してもらった。「出汁が効いていて、素材の味を楽しめると」思った「貝だくさんのお汁で、しっかり野菜も食べれる」「旬の食材を出してくれて、食の幅が広がってありがたい」などの感想が聞かれ、参加した保護者は喜んでいて、給食職員も、保護者とのやり取りや感想文に目を通す中で、やりがいを感じることができた取り組みだった。

②クラス懇談会

どのクラスも、子どもの様子をスライドショーで見せたり、1年間の保育方針を担当から伝えることができる会として、毎年5月ごろに開催している。

保護者からは、「写真を通して、園での様子を知ることができとてもよかった」などの声も聞かれたが、普段会えない保護者同士の意見交換ができたことで、同じ悩みを持っていることに安堵する保護者が多かった。

・クラス懇談会に参加した世帯 61%(2023年度=69%)

③保育参観・個人懇談

今年度は、5月～1月までの期間の月曜日または水曜日に限定して保護者に参観と懇談をお願いした。(その他の曜日は、クラスの話し合いが入るため)

申し込み方法も、保護者がコドモンを利用して行うため、スムーズに予約ができ、参加率も上がった。参加した保護者は、園内での子どもの様子が分かる貴重な機会のため喜んでいて、また、職員にとっても、家庭での子どもの様子を知ることができる貴重な機会になっている。子どもの成長や保護者の支援等で、必要があると感じた場合は、複数回の懇談を行う場合がある。

・保育参観(保育参加)に参加した世帯 89%(2023年度=88%)

・個人懇談を実施した世帯 89%(2023年度=90%)

（６）おつきみかい・ちびっこまつり

近年の猛暑もあり、2024 年度は両行事の開催時期を 2 週間遅らせた。

① おつきみかい

地域の方にも制限なく参加して頂けるようにしたので、参加者も 550 名を超え、コロナ前のように活気ある「おつきみかい」が戻ってきたようだった。特に、卒園児やその保護者が、とても喜んで参加していた。当日は、朝から実行委員会の保護者やボランティアと一緒に準備してくれた。

遊びでは、子どもたちが楽しめるようにと、「スタンプラリー」を実施するなどの工夫があったことで、混雑なく色々な遊びを楽しむ姿があった。また、模擬店では、北園庭を売り場と飲食スペースにすることで大きな混雑は見られなかった。子どもたちが普段給食でも食べている、人気の唐揚げや焼きそばもあり、地域のお好み焼きや JA のコロケなどの販売もした。

恒例の出し物では、ボランティアさんが絵本の読み聞かせを行い、職員がわらべうたをした。毎年、恒例の職員の劇では、「岡山のももたろう」を披露したが、子ども達は楽しかったようで、5 歳児は発表会で、同じ演目を見事に演じていた。

② ちびっこまつり

0.1.2 歳児は、「ちいさいちびっこまつり」として 1 週間かけて参観形式で行った。「いつもの様子が見れてよかった」「できることが増えてうれしい」「先生に名前を呼ばれるまで待っている姿に驚いた」などの感想があった。また、2 歳児の保護者からは「運動会のような感じがしなかった」「パタパタ旗などがあったらよかった」などの意見があった。

3 歳以上児は、土曜日の午前中に観覧形式で行った。北園庭だけを利用したことで、移動もなく落ち着いて行うことができた。放送についても、地域ので承が得られ使用することが出来た。当日は、5 歳児が持てる力を発揮し、一番カッコいい姿を見てもらえたように思う。リレーでは、クラスが一致団結して話し合い、工夫を重ねながら取り組む姿に感動する保護者もいた。ちいさいちびっこまつりの参観者数は 84 名で、ちびっこまつりの観覧者は 174 名だった。

（７）父母の会活動

定例役員会が月に 1 回開かれ、ほぼ毎月会議を行った。

昨年度に引き続き、父母の会主催の「親子遠足＝おもちゃ王国」は、各世帯が自家用車などを利用して集合し、現地で交流する内容にした。こういった取り組みを通し、父母の会から各世帯に会費の一部が還元された。参加者は、延べで 20 世帯 68 名だった。

また、園主催の「親子バス遠足」では、園児 1 名につき 800 円のバス代の補助を 53 名に行った。その他、昨年度に引き続き「リユースフェスタ（衣料品）」を 3 回実施した。

父母の会機関誌「わいわい通信」を活用し、送迎時に遊具を利用して遊ぶ場合の心得や小学生であっても車内に子どもを置いたままにしないことなどを記載し、保護者が目を離さないよう見守ることを注意喚起した。

2024 年度は、新たな役員が見つからず存続の危機を迎えた。クラス懇談会の時に呼び

かけたり、送迎の際に声掛けなどを行っていたがうまくいかなかった。そこで、コドモンで父母の会役員を募集したところ、興味がある方が 8 名いることが分かった。理由を聞くと「県外から来て知り合いもいないので、保護者と交流できる場が欲しかった」「行事を通して、子どもたちのためになることをお手伝いしたいと思った」「以前から興味はあったが入るきっかけがなかった。アンケートだと回答しやすかった」などの答えが返ってきた。新しい人は、お父さんが多く会議にも参加してくれている。2025 年度は、全てのクラスに役員が配置できた。

（８）安全対策

① 非常災害訓練

月 1 回の「避難訓練」と「消火訓練」を実施した。

「避難訓練」は、火災・地震・水害などを想定した訓練を行っている。11 月には中区消防署倉田出張所の職員立ち会いのもと、火災を想定した総合訓練を行った。迅速に避難できたと評価してもらったが、給食室が出火場所の場合、うめ組は北側園庭に避難した方が、給食室の横を通らなくてよいので安全に避難できるのではないかと助言を受けた。

また、初期消火では、給食室のカウンターのガラス窓を閉め切ると、一酸化炭素中毒で意識消失になる可能性があるため開けるように指導された。

「不審者訓練」も行った。1 次避難で各部屋に避難したが、3 上は、うめ組に全員避難した。しかし、2 次避難を考えると、うめ組はもちろんのこと、もも組とさくら組はできる限り速やかに北側園庭に避難する方が良いのではないかという話になった。次年度は、防犯協会の協力を得て複数回実施したい。

② 事故への対策

安全委員会が、毎月 2 人 1 組で園舎内外の安全点検を引き続き行った。点検することで、専門業者に修理の必要性に気付くケースがあった。この取り組みは、子ども達に安全を保障するとともに、職員の安全意識を育てる目的もある。

岡山協立病院の職員を招いて行っている「救命救急講習会」は、保護者にも呼びかけている。参加した保護者の中には、「いつも一人で子育てしているから、何かあった時のために参加しました」という保護者もいた。

園内では、どんな些細なけがでも「事故報告書」に記載して、管理職に提出することになっている。

2024 年度は、夕方の保育中に、鉄棒から手を離した 5 歳児が落下して腕を骨折する事故が起きた。これは、重大事故に該当するため、所定の書式に記載し岡山市に報告した。事故が起きた時の状況については、その場に居た職員から聞き取りを行ったあと、職員会議で報告し全体で共有した。保護者は、医者から事故後の園での対応が迅速で適切に行われたと言われたことで感謝を述べられた。また、保護者に対しては、事故の状況を丁寧に説明し、謝罪したことで理解して頂いた。

ヒヤリハットも引き続き作成し、起きたときは速やかに記載して全職員に配信することになっている。

1 1. 職員会議及び総括・方針会議

(1) 職員会議 毎月第 1 土曜日

毎月第 1 土曜日は、「園内の環境整備」や「委員会・係」について、役割分担を決めて行っている。この日に集中して行うことで、平日の日中に会議や作業の時間をとることが減った。このことで、クラスの話し合いの時間に充てることが可能になっている。

(2) 総括・方針会議

2 月 11 日・24 日・3 月 1 日に実施した。

① 田中真介氏（京都大学元准教授）を招き、2024 年度 2 回目の研修会を開いた。

テーマは前回の乳児期の続きで、「幼児期中期～後期の発達と保育」であった。翌日には、発達で気になる園児の保育観察も実施した。

座学では、スライドをもとに幼児期の発達の姿や保育の中で大切にしたいことなどについて深めることができた。

観察では、1 回目の観察から半年で質的転換が行われようとしている園児の姿が見られて、子ども自身の頑張りとそれを支えた職員の頑張りが伺えた。また、初めて観察対象となった園児については、自我の育ちの難しさから持てる力が発揮できていないことが分かり、2025 年度は「第二者の形成」のために、担当保育士を付けて保育することにした。

② 私たちが行っている「保育の基本（流れる日課と育児担当制）」について、文献を読み合わせて共有した。その後、グループ討議を通し、実際の保育で困っていることを出し合い話し合ったり、なぜ行うのかについて理解が深まったことを確認した。

文献：「くるみの木おたより」

テーマ；どう考えたらいいの？ ～Q&A 特集～ 「日課」

③ 理事長を講師に招き「コスタリカで学んだこと」の講演をしていただいた。

コスタリカの国の成り立ちや教育観などについて詳しく知ることができた。コスタリカが、自らの歴史の中での反省を生かし、国の方針を変えたことで、様々なことが実現できているという話は、政治を身近に感じる機会になった。また、「子どもを尊重する」ということはどういうことなのかを考えることができた。日本の政策課題について考えることができ、社会に目を向けるきっかけになった。

④ 気になる子どもの保育観察のまとめ（発達相談員を交えた話し合いのまとめと共有）

観察して頂いた子どもについて、どのような話しが行われたかのまとめやその後の取り組みと変化、今後の課題などを担任が発表し、発達相談員から意見を頂いた。

発達相談員からは、子どもの育ちについての考察がされ、気になる子どものほとんどが「第 2 者の形成」に難しさを抱えていることが分かった。子どもの育ちにとって、何が大切なのかを深めることができた。

⑤ 園庭整備の研修会

スマートエデュケーションの方を招き、研修会を行い、山根評議員も参加した。

パワーポイントなどを使い、園庭づくりで大切にしたいポイントを聞いた後、グループワークで子どもの頃にあそんだことを話し合い、どんな園庭にしたいかのイメージ画を作成した。その後、描いた絵についてグループごとに発表した。

イメージ画の作成は 2 回目だが、以前話し合った時より、職員の中での園庭イメージがまとまってきた印象を受けた。

1 2. 年間行事

(1) 行事の取り組みをとおして

① 水あそび・プールあそび

昨年同様、水遊びやプール遊びに取り組んだ。1～3 歳児は水あそびを、4～5 歳児がプールあそびを行った。水遊びもプール遊びも、年齢ごとに少人数でしっかり遊べるようにし、いずれも流し水で対応した。子ども達が、気持ちよさそうにあそぶ姿が印象的だった。また、水の事故から子どもを守るため監視に専念する大人をそれぞれの場所に配置し安全を確保して遊べるようにした。

今年は、北園庭にプールを出し、ついたてで子ども達が遊んでいる様子や着替えの様子が、周りに見えないように配慮した。

② お泊り保育

お泊り保育を 2 回実施した。

1 回目は「野菜の収穫」「生き物すくい」を行い保育園に宿泊した。5 グループに分かれて「夏野菜を使ったカレー」と収穫した野菜でのクッキングを行った。毎年お願いしていた「移動販売車 とくしまる」の都合がつかず、職員が食材や調味料等を用意して園内にお店を開き、本物のお金で買い物をする体験を行った。

2 回目は、園外に出て地域で活動した。「一日の生活を丸ごと体験しよう」をモットーに、グループに分かれ地図を片手に畑を周り様々な野菜を収穫した。翌日は「ハゼ釣り」にも挑戦した。保護者は、現地で「就学前懇談会」に参加し、子ども達の帰りを待った。どの子も、それぞれの活動に期待をもって生き生きと参加することができた。

子どもは、自分の目標を振り返りながら努力したり、どうすればよいかを考えて行動する姿が見られた。夏のお泊り保育以降の成長を見ることができた。

③ おおきなあれのつどい【参加者：145 人】

表現活動の発表会として、ホールを舞台に発表した。

5 歳児は、お月見会で見た職員の劇「岡山のももたろう」の劇づくりに全員で取り組んだ。3、4 歳児は各クラスで劇ごっこに取り組んだ。

子ども達は、保護者が見に来てくれていることが嬉しく頑張る姿が見られた。堂々と台詞を言いながら演じる姿や友達が困っていると助けて覚えた台詞を言って助けてあげる姿もあった。子どもの姿は生き生きしていて保護者の感動を誘った。

④ 卒園式

式は、保護者と一部の職員が参加して行った。子どもの人数が多いので、子どもの座

る位置を工夫し、式の内容も保育証書の授与と卒園児の歌、保護者や理事長・園長のあいさつのみにして時間を短縮した。卒園式は、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。式の当日は、子ども達は堂々とした振る舞いで証書を受け取り、22人の心を一つにした歌声は参加者をとても感動させた。

⑤ 地域のお年寄りとの交流「なでしこ会」

住吉町のコミュニティーで、地域のお年寄りとの交流会を始めた。11月、2月の2回ではあったが、5歳児が参加し、わらべ歌を歌ったり一緒に遊んだりして楽しいひと時を過ごした。子ども達は、日頃お年寄りと一緒に遊ぶ機会が少ないのでとても良い機会になった。保育園から近いので、交流する機会を増やしていきたい。

《2）年間行事

実施月	保育園行事	健康管理・安全管理・災害訓練	地域行事への参加 他団体との連携行事
4月	進級おめでとうの会 いのちを大切にする日		
5月	端午の節句の会 お弁当の日・徒歩遠足 クラス懇談会		
6月	保護者総会 お弁当の日・徒歩遠足 平和の会 クラス懇談会	定期健康診断① 尿検査（3上） フッ素塗布①	交通安全指導①
7月	七夕の会 救命救急講習会 土用の丑の日の会 お泊り保育①		
8月	民話の会		
9月	おつきみかい		
10月	ちびっこまつり 大相撲見学	歯科検診 フッ素塗布②	
11月	お泊り保育②・就学前懇談会 お弁当の日・徒歩遠足 親子バス遠足 芋ほり遠足	定期健康診断② 総合訓練	交通安全指導② なでしこの会
12月	お弁当の日・徒歩遠足 すもう大会 クリスマス会		
1月	七草の日 おおきくなあれの集い（3歳以上児） 劇団風の子		
2月	節分の会 角笛シルエット劇場（5歳児）	フッ素塗布③	交通安全指導③ なでしこの会
3月	お別れ遠足 卒園式		
毎月	絵本の会	避難・消火訓練 身体測定	
随時	保育参観・個人懇談		

13. 職員研修

(1) 研修一覧

	主催	研修名	参加者
全国	全国保育団体連絡会	全国保育団体合同研究集会（zoom）	6人
	全国民間保育園経営研究懇話会	夏季セミナー	1人
	全国民間保育園経営研究懇話会	経営研究セミナー	1人
	全国保育士会	全国集会	1人
	全国民間保育所経営研究懇話会	中四国会議セミナー・総会	3人
	保育プラザ研修	保育の基本講座	1人
神戸	神戸コダーイ芸術教育研究所	公開保育 2歳児	1人
		保育セミナー	3人
		オンライン講座・環境認識	1人
		オンライン講座・乳児	2人
岡山	岡山県	園長研修会	1人
		B C P 策定支援研修	1人
	岡山県社会福祉協議会	生涯研修課程（初心者）	2人
	岡山っ子育成局保育・幼児教育部	園外保育における安全管理	6人
	岡山市保健所	特定給食施設関係者研修	1人
	岡山市発達障害者支援センター	おほほ研修	1人
	岡山市保育協議会	子どもの人権	1人
		保育実技・あそび	1人
		保育実践・運動	1人
		メンタルヘルス	1人
		保健健康	1人
		乳児保育	3人
		家庭支援	1人
		特別支援	1人
	園内研修	発達学習会	全職員
		個別支援ケース検討会	全職員
		園庭整備計画学習会	全職員

経 営 報 告

1. 総合評価

今年度は、受入れ園児の確保が難しい1年間であった、当初予算編成時点での園児受け入れ見込み数は118名と定員を下回っており、2023年度末までに2名の受け入れが確定して、2024年4月1日は定員120名でのスタートとなった。その中でも、特に、経営に大きな影響を与えたのは、0歳児の4月在籍人数が7名で、年度末には16名在籍まで漕ぎつけたとはいえ、年間平均人数は10.66名と近年にない低い数字であったことだ。

受け入れ園児数が増えない理由としては、まず、少子化や岡山市内の保育園定員の充足という社会的な要因がある。次に、育児休業の職員が4名いたことに加え、保育士確保がタイムリーにできなかったこと。そして、最後に、入園見学に訪れた多くの家庭が、岡山協立保育園の希望順位を第2希望としていたことが挙げられる。保育士の確保について、経営的な視点から考えると、園児の受け入れ数が増えるタイミングで、必要な保育士を配置するのが最もコストパフォーマンスが良いということになるが、実際には、職員の産休取得が年度の途中で決まった場合の代替え確保が難しければ、該当職員は配置基準から除くことになるため、現場としては産休までの約半年間、余剰の職員が配置された形で人手が潤う反面、その人件費の原資はなく、法人の経営努力で費用を賄うことになる。この点についても、制度面での不遇さが大きく影響している。保育事業は、子どもたちが幸せに生き抜いていくことができる大人になるための大切な時間を担っていることを考えると、安定し、発展し続ける保育事業の運営は必要不可欠であり、そのためには制度について、より一層、運動を展開していくことが必要だと感じた。

保育事業収益は、前年度とほぼ同額だった。この中には、11,234千円の人事院勧告改定(10.7%)による人件費改善分と4,887千円のチーム保育推進加算、-2,934千円のその他の事業収益などが含まれているため、保育による収入は、実質約13,542千円の減額となった。主な内訳は、委託費(実質)-13,055千円、障害児保育対策事業補助金-2,000千円、保育支援者配置助成補助金+1,022千円など。

人勸による公定価格改定分(+10.7%)は、11,234千円となり賃金改善に全額充当した。

事業活動計算書により人件費を昨年度と比較すると4,299千円増加したが、人勸改定分(+10.7%)とチーム保育推進加算分による人件費支出が16,121千円(法定福利費含む)含まれるため、実質は11,823千円減少した。産休育休取得職員(正規保育士1.25人/年・非正規保育士1.42人/年)により、支出が減少したと思われる。差異が大きい科目について、派遣職員費+6,702千円(派遣職員の増加、保育士：常勤換算1.5人、事務員：常勤換算0.5人)があった。

事業活動計算書により事業費を昨年度と比較すると634千円減少した。差異が大きい科目について、保育材料費+726千円(親子バス遠足、大相撲巡業観覧、三輪車部品交換、ブラインドパネルなど)、雑費(事業)+157千円(非常食)などがあった。

事業活動計算書により事務費を昨年度と比較すると1,460千円減少した。差異が大きい科目について、法人拠点区分における事務費支出-232千円、福利厚生費+137千円(職員親睦補助、ノウイム検査他)、研修研究費+194千円(外部講師費用)、修繕費-897千円(園舎メンテナンス工事隔年実施)、広報費396千円(イツザイ)、清掃委託費-351千円(1703クリニク隔年実施)、その他の委託費-990千円(イツザイ昨年度WEB制作)、手数料-321千円(人材紹介手数料昨年度支出)などがあった。

施設整備等補助金収益で、岡山市性被害防止対策等支援事業補助金として、75千円を受け入れて、ブラインドパネルの購入に活用した。

積立資産について、保育所施設・設備整備積立金への積立4,000千円を補正予算で計上していたが、決算で生じた当期資金収支差額4,000千円を加えて、園舎の維持・メンテナンス・改修等に備えるために、合計8,000千円の積立をしたい。

岡山協立保育園拠点区分資金収支計算書において、職員賞与支出の予算額29,839千円のところ、決算額が30,121,502円で予算を282,502円超えていた。3月に支出した一時金の算定について、補正予算編成後に発生した欠勤等の影響により差異が出たものである。大区分の人件費支出内で支出した。

法人全体の貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は-456千円、固定資産は-7,593千円となった。法人に残った最終的な利益を数値化した当期活動増減差額は、昨年度より5,265千円減少（前年度決算；6,985千円減少）していて、5,829千円（前年度決算；11,093千円）となっており、減少傾向が続いているが、今年度、園児確保、職員確保に苦労した中での純利益に相当する額としては評価できると考えている。経営状態は良好であるといえる。

今後、少子化傾向が加速する中で、特に、園児確保において、厳しい状況が好転することは考えにくい。将来的には、経営に影響が出てくる可能性が高いため、理事会等で、経営分析や経営方針に関して協議していく必要があると考えている。

資料1【固定資産取得支出；917,950円】

	園庭環境	園内環境	ICT関連
建物附属設備（基本）	プール用水栓新設工事 162,800円		
器具及び備品	スライドテントひざしカット 150,000円	逆浸透膜冷水器ひやりん 308,000円	共有デスクトップPC 297,150円

2. 施設整備の状況

（1）土地・建物の取得

特になし

（2）建物・備品等の修理・修繕

- ・逆浸透膜浄水器 フィルター交換
- ・NECデスクトップパソコン HDD交換
- ・メンテナンス工事（鍵・金物他取替）
- ・エアコン室内機修理（給食室・つくし）2台
- ・食器洗浄機 水用電磁弁交換
- ・スチームコンベクションオーブン 軟水カートリッジ交換
- ・カーテンレール修理（すみれ）
- ・水空気清浄機クリスタルイオン1台 修理
- ・職員ロッカー鍵交換
- ・保育室扉（さくら）修理
- ・床下点検口丁番取替え
- ・駐車場バリカー 修理
- ・会議テーブル 修繕

- ・ 事務所ブラインド 修理
- ・ 非常灯交換
- ・ 扉クラスマーク・園舎配置図クラスマーク 入れ替え

(3) 設備・備品等の整備

- ・ プール用水栓新設工事
- ・ スライドテントひざしカット
- ・ 逆浸透膜浄水器ひやりん 1台
- ・ 共有デスクトップパソコン買替え1台